

プログラムの概要

高齢化社会の到来とともに、運動器疾患・外傷に起因する日常生活動作の障害を訴える症例はますます増加し、臨床医としては専門性に関わらず、それらの基本的病態、診断、治療法を理解かつ実行できる能力が要求される時代が到来しています。研修では、将来は運動器疾患・外傷に対する専門医とならない医師でも、それによる日常生活での障害を解決し、患者のQOLを向上させるための基本的臨床対応能力を、短期間に身につけられることを目標としたものです。

アピールポイント

整形外科医として十分な知識・技能・経験をもち、他の医療従事者とも協調しながら誠実な態度で患者さんに接する姿勢を養います。当直においては、救急患者の診療を指導医と一緒に経験します。病棟では入院患者を受け持ち、指導医とともに診療に当たります。手術では、手術の原理と術式を理解し、研修者の習熟度・情熱・技量によって指導医のもとで自ら術者として執刀します。また、各専門的手術では原理と術式を理解し、助手としての確な補佐をします。

具体的な研修内容

日本専門医機構の整形外科領域研修プログラムに準じた内容で研修を行っていただきます。大学では脊椎、関節外科、小児整形・リウマチ、骨軟部腫瘍のグループに分かれ、スポーツや手の外科、一般外傷は関連病院で、希望に応じてローテーションします。その際には、病棟業務はもちろん、外来診療ならびに手術での術者・介助を研鑽して、医師としての上記各領域での運動器疾患・外傷の基本的かつ精緻な病態を理解し、その診断と初期かつ長期的治療法の適応を決定、実行できる知識と医療技術を習得します。特に、肩こり・腰痛・膝関節痛・よくある骨折・捻挫といった、日常診療で遭遇しやすい疾患に対しては、診察・診断から初期治療までを習得できます。当科で研修を行えば、日本専門医機構の整形外科専門医の取得が必ず可能です。



学生・研修医向けのワークショップの様子

